

すずきものの ほっかいどう スケッチ

第56回

麦畑が噴火し、 地表を押し上げ 誕生した山

今回の“ほっかいどうスケッチ”は小学生の時、社会見学で初めて見た昭和新山。茶色い岩肌からもくもくと白い煙が上がり、火山のエネルギーを肌で感じて印象深く残っている。昭和新山が当初、有珠新山と呼ばれていたことを最近知って、改めて掘り下げてみた。半世紀以上前のその社会見学時に、昭和新山の成り立ちについて学んだはずなのに、すっかり忘れていた。

昭和新山は、活火山である有珠山の活動で何度も地震が起き、麦畑だったところにマグマが噴火し畑を押し上げ、1943年～1945年のたった2年間で約400メートルの山になったという、世界でも非常に珍しいケースの山。興味深いのはこの地域の郵便局長だった三松^{みまつ}正夫^{まさお}さんが残した「ミマツダイヤグラム」だ。

噴火が起こり隆起が始まってから終息するまでその成長過程を毎日、定点観測でスケッチを描き、地震の回数やそれに伴うさまざまな現象について記録していったのだ。三松正夫さんが成し遂げた、このデータとしてのスケッチの正確さがすごい。この「ミマツダイヤグラム」は世界的に評価され、昭和新山は1951年に国の天然記念物に指定されている。

そしてできてからずっと暫定的に有珠新山と呼ばれていたが、1960年に火山学者の田中^{たなか}館博士が命名。改めて昭和新山になったそうだ。麓には三松正夫記念館があり、記録した資料が展示されている。次に行くチャンスがあれば、記念館でスケッチなど資料を拝見し、有珠山ロープウェイに乗って、眼下に広がる未だ白煙をあげている昭和新山を再び眺めたい。





すずき もも

イラストレーター・絵本作家／スローフードさっぽろ会員

東京生まれ、北海道夕張育ち。広告や雑誌、カレンダーなどのイラストを描くほか、イラストで綴る町案内の本や絵本などを執筆。ほか、「スローフードさっぽろ」を2016年に立ち上げ、食を中心に環境や暮らしの大事に取り組んでいる。著書に絵本「はるとなつ はたけのごちそうなーんだ?」（アリス館）「おいしい大地、北海道」（イースト・プレス）がある。近著に絵本「はたけのごちそうなーんだ? くだもの」（アリス館）がある。モットーは4つのS。「Simple, Slow, Small, Smile: ささやかに、ゆっくり、ほどほどに、にこにこ」。